

RPPC メールマガジン 第 786 号

リサイクルポート推進協議会（令和元年 8 月 7 日）

■事務局からのお知らせ

先週・今週のお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 洋上風力発電で先行 4 区域が促進指定有望

国土交通省港湾局、経済産業省は 7 月 30 日、再エネ海域利用法に基づく「促進区域」の指定に向け、一定の準備段階に進んでいる区域として 11 区域を整理したと発表した。

このうち

▽秋田県能代市、三種町および男鹿市沖、

▽秋田県由利本荘市沖（北側・南側）、

▽千葉県銚子市沖、

▽長崎県五島市沖、の 4 区域については有望な区域として、地元関係者等による協議会の組織、国による風況・地質等の詳細な調査を速やかに実施する方針。第三者委員会における評価を経て、年内にこれら 4 区域が促進区域として指定される見込み。

11 区域（有望 4 区域含む）は、

▽青森県沖日本海（北側）、

▽青森県沖日本海（南側）、

▽青森県陸奥湾、

▽秋田県八峰町および能代市沖、

▽秋田県能代市、三種町および男鹿市沖、

▽秋田県潟上市沖、

▽秋田県由利本荘市沖（北側・南側）、

▽新潟県村上市・胎内市沖、

▽千葉県銚子市沖、

▽長崎県西海市江島沖、

▽長崎県五島市沖。

2. 横浜市でブルーカーボン連絡会議開催

横浜市温暖化対策統括本部は7月23日、市役所内で「自治体ブルーカーボン推進連絡会議」の初会合を開催した。横浜市が平成26年度から実施しているブルーカーボンを活用したカーボン・オフセット制度の取組みを拡大することを目的に実施したもので、当日は同制度に関する連携を検討している福岡市など5つの自治体が参加した。今回合合では横浜ブルーカーボンのこれまでの取組み、事業内容等について説明があったほか、港湾空港技術研究所から国における吸収源対策としてのブルーカーボン活用に関する検討状況等について報告があった。

3. 下関技調が熊本港水深10m耐震岸壁計画で技術検討

九州地方整備局下関港湾空港技術調査事務所は今年度、熊本港（夢咲島地区）で事業化が要請されている水深10m耐震強化岸壁（岸壁本体170m＋取付部30m）についての技術課題の洗い出しなどの検討を進める。コスト比較などを通じて最適な断面を抽出することとしている。同関連業務は平成29年度から検討調査を行ってきており、今年度に最終とりまとめを行う。これまでに新規バースとして重力式や栈橋式岸壁の比較検討、また既設の水深7・5m岸壁を水深10mの耐震強化岸壁に改良するなどの案が出ており、比較検討する。

熊本地域では平成28年度熊本地震時、八代港と共に熊本港がその救援物資の受入機能など震災支援に大きな役割を發揮した。ただ熊本港には耐震強化岸壁がないため、災害時の防災拠点機能を確保するため、熊本県ではコンテナ貨物を取り扱っている水深7・5m岸壁に隣接する形で水深10mの耐震強化岸壁を港湾計画に位置付け、国に早期具体化を要請してきている。

【港湾空港タイムス 8月05日号から編集】



発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL：<http://www.rppc.jp/> E-mail:rppc_jimukyoku@wave.or.jp



■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。